

会 議 録					
令和7年度第3回 在宅医療・介護連携 推進会議	日 時	令和8年2月12日(木) 午後7時～午後8時	場 所	Web会議及び 市役所第二庁舎 801会議室	
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課				
出 席 者	委 員	委員長 斎藤 寛和 委員 岩田 卓也 委員 森田 洋彰 委員 齋藤 優喜子 委員 坂本 美和 委員 布川 修 委員 森田 和道 委員 河西 あかね 委員 中川 麻砂子 (小金井きた地域包括支援センター) 委員 田口 重和 (小金井みなみ地域包括支援センター) 委員 高橋 徹 (小金井ひがし地域包括支援センター) 委員 久野 紀子 (小金井にし地域包括支援センター) 委員 伊藤 直樹 (日常療養支援・多職種連携研修部会長) 委員 大井 裕子 (急変時対応・看取り支援部会長) 委員 田中 功一 (ICT連携部会長)			
	事務局	高齢福祉担当課長 磯端 洋充 介護福祉課主査 加藤 勇一 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美			
傍聴の可否	◎ 可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由					
次 第					
1 開 会					
2 議 題					
(1) 各部会における検討状況について					
(2) 令和7年度お元気サミット・介護みらいフェス実施報告					
(3) 令和8年度在宅医療介護連携推進事業及び関連する事業について					
(4) 小金井市認知症基本計画(仮称)の策定等について					
(5) 令和8年度在宅医療・介護連携推進会議の日程(案)について					
3 その他					

(1) 在宅医療・介護連携推進会議の今後の課題の検討について

4 閉 会

1 開 会

(事務局)

本日の会議からきた地域包括支援センターの管理者が変更になり、中川委員に出席いただいている。

続いて、本日の配布資料は、資料1が各部会における検討状況について、資料2が「令和7年度お元気サミット・介護みらいフェス実施報告」、資料3が「令和8年度在宅医療・介護連携推進事業関連予算について」、資料4が認知症基本計画の策定等について、資料5が「令和8年度在宅医療・介護連携推進会議の日程（案）について」である。

会議録の作成について、発言については要点の記録とさせていただく。録音を行っているので、発言される際は所属と名前をおっしゃっていただきたい。

傍聴について、本会議は市の設置要綱第9条において公開としているが、本日は傍聴者はいない。

2 議 題

(1) 各部会における検討状況について

(斎藤委員長)

まず今日の議題「1 各部会における検討状況について」だが、各部会長から報告を頂いた後、質疑等をしたと思う。御多忙かと思うので、部会長の皆様には報告、質疑等の後、退席いただくことでよろしいか。(意義なし)

(事務局)

最初に事務局から説明する。資料1について、在宅医療・介護連携推進会議における検討状況をまとめた。この後、各部会長から報告いただく。

なお、入退院支援部会においては、入退院多職種連携フロー図を部会員の皆様に検討いただき作成した。文言等の若干微調整はあるかと思うが、本日までの成果として資料配布した。

(斎藤委員長)

では、まず最初に日常療養支援・多職種連携研修部会から報告願う。

(伊藤委員)

11月19日にハイブリッド形式で部会を開催した。内容は、令和7年1回目の多職種連携部会の報告についてと、「いつまでも住み慣れた小金井で」という在宅療養のパンフレットが、地域包括ケアの姿と少し乖離しているのではないかと、検討して再度作り直そうということで、改訂発行を行うために内容等を今後話し合うことが決定された。第1回の多職種連携研修会に関してはカスタマーハラスメントを題材として行った。対

応例を幾つもお出しただけのため、非常に参考になったと好評いただいた。毅然とした対応が改めて必要だということを皆さんに理解していただけたかと思う。また、相談窓口などを必要なときに活用する方法を周知できたと思う。

2月4日には第2回の多職種連携研修会を開催し、たくさんの方に参加いただいた。「キーパーソンの不在または単身高齢者の在宅生活を多職種連携で支えていく」という事例がテーマの研修会は、大変大盛況だった。とてもよかったと思う。

(斎藤委員長)

それでは、入退院支援部会は竹田部会長が欠席のため、事務局から報告をお願いします。

(事務局)

入退院支援部会は1月23日にオンライン形式で開催した。議題は令和8年度在宅医療介護連携推進事業の関連事業の予算について、小金井市入退院支援調整フロー図について、令和8年度の入退院支援部会の開催予定(案)についてである。

入退院支援調整フロー図については、これは以前からケアマネジャーがいない場合についてフロー図にどのように盛り込むか等の意見を頂き、それを整理し、おおむねこの形ということで了承いただいた。今後、事務局にて若干の微調整を行い、また委員の皆様にお示しする予定である。

(斎藤委員長)

では、続いて急変時対応・看取り支援部会から報告願う。

(大井委員)

まずお元気サミットの振り返りをした。荻野美恵子先生が主に地域で脳梗塞の後の延命処置などについてどうなのかみたいなことを具体的につくられた寸劇で、それをそのままお借りしてお元気サミットで行った。今後、小金井市のホームページで公開されると思うので、また見ていただきたいが、それぞれの役の人がシナリオを見ながらそのまま読んでやるような形であるが、裏方になってくださった方やいろいろな持ち場の人がそれぞれ役割を持って、全く準備の時間が取れなかったが、スムーズに進めることができた。会場から見てくださっていた部会員からもとても具体的な概要がイメージできてよかったと感想を頂いている。

もう一つ、活動の目標として上げているのが、各ステージで食支援に対応できるチームが増えるとともに、本人・家族が納得できる看取りに向けた準備ができるというもの、これについて、例えば高齢者の方が食べているときに窒息したらどんな対応をするか、認知症があって食事が食べられない、食事が進まないときにどういう対応をしたらいいのかといったことを具体的な事例を提示して、それへの対応をまとめるマニュアルを今後作成予定であり、現在検討を進めている。また来年度の部会でも検討していく。

(斎藤委員長)

では、最後にICT連携部会から報告願う。

(田中委員)

まず令和8年度第1回のICT研修会は令和8年4月13日月曜日と決定した。内容はMCSを運営している株式会社エンブレースの担当者から説明を頂き、MCSを使用した多職種連携、チーム機能に係る事例報告と、グループでのチーム機能の操作方法について研修したいと思っている。去年の4月に行った研修内容をブラッシュアップして行う予定であるので、ぜひ皆様に参加いただきたい。

また第2回の研修会は10月16日と決定しており、以前リクエストのあった電子処方箋の導入に関して研修会をしたいと思う。来週部会があるので、そこでまた検討して、今度の親会議で報告できたらと思う。

(斎藤委員長)

今のお話は来年度のことか。

(田中委員)

来年度の話である。

(斎藤委員長)

今年度はどんな内容でやられたのか。

(田中委員)

今年度は、第1回は去年の4月にMCSで新たに備えたチーム機能に関する研修を行った。また、10月には東洋大学の高野教授をお招きして、医療・介護の連携、DXに関する講演を行い、好評を頂いた。

(斎藤委員長)

それでは、ただいまの各部会長及び事務局の発表について意見、質問があればお願いしたい。

日常療養支援・多職種連携研修部会の研修はグループワークの熱気があり、やはり皆、こういった対面での話合いのニーズがあったのかと思った。私は残念ながら最後に少し参加しただけだったのだが、会場に向かうときに、うわーっという歓声がたくさん聞こえてびっくりした。皆、本当に楽しそうに取り組んでおり、またぜひ同じような企画をしていただきたいと思う。当日参加した方もいるかと思うが、何か感想や意見はあるか。

(伊藤委員)

医師会と歯科医師会の先生方にたくさん出席していただいたのが盛り上がった一番の要因だと思う。一方で、訪問介護事業所やデイサービスの事業所の方の参加がなく残念だった。訪問介護事業所が人員的に非常に大変なのはよく分かるが、今後もう少しヘルパーさんに参加いただけるような形を何か考えられればと思っている。

(斎藤委員長)

昔はヘルパーさんも出てくれていた。またお声かけしてみてもいいのではないか。

(伊藤委員)

あまりにも忙しそうなので、私も声をかけづらい。

(齋藤委員長)

在宅医療・介護連携推進会議といいながら、介護側の参加が少ないので、皆さんからもお声かけをお願いしたい。

ほかに何かあるか。

入退院支援部会は非常に詳細なフローができていて、皆さん持ち帰ってよく目を通していただきたい。

それから、急変時対応・看取り支援部会はお元気サミットで寸劇をやっていただいたり、非常に活発に活動されていて、いつも敬服している。ただ、食支援については、日常療養支援部会・多職種連携研修部会の検討内容と重なってしまうような気がするので、そちらと検討していただいてもいいかと思う。

I C T連携部会はタイムリーな企画をしていただきありがたい。医療・介護連携のD Xのような企画をまたやっていただけるとうれしい。電子処方箋についての勉強会も個人的にも非常に興味のあるところだ。

ほかに何かあるか。

(森田洋彰委員)

この前、多職種連携研修に遅れて参加したが、とても熱気あふれた感じで楽しく過ごせた。今後またどんどん進んで行ってほしい。

I C T連携部会は、これから在宅医療がどんどん進んでいくにつれて、M C Sで連携だけでなく、処方箋やオンライン診療、オンライン服薬指導という形で薬局や病院の医師が便利に効率よく診療や指導ができると思っているので、大変楽しみにしている。

(森田和道委員)

多職種連携の研修で介護職が少なかったという指摘について、介護事業者連絡会所属の会員にも働きかけをしていきたいと思う。

(齋藤委員長)

ほかに特にないか。

この議題はこれで終わりたいと思う。

(2) 令和7年度お元気サミット・介護みらいフェス実施報告

(事務局)

令和7年度お元気サミットについて報告する。

昨年11月12日と13日の2日間開催し、無事終了することができた。

特に在宅医療・介護連携推進事業に関しては、急変時対応・看取り支援部会の皆様に、各種役割において尽力いただいた。大井部会長には講演も頂き、感謝する。

(資料1) 本イベントは、毎年医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護事業者連絡会、各

地域包括支援センター等医療・介護に携わる様々な団体の皆様の支援の下、開催している。また宮地楽器ホールの展示スペースでは、警察、消防関係の方、様々な団体の皆様にも協力いただいた。アンケートの回答から各イベントともおおむね好評であったと考えている。

生活支援の分野では、お元気な方にも焦点を当て、特にシニア世代の定年後の地域との関わり方について取り上げ、講演行った。大変好評だった。また、認知症地域支援推進員による認知症の啓発を目的とした「認知症世界の歩き方」では、画像やゲームにより、認知症についての理解が深まったという感想も頂いている。認知症の方から見える見え方、世界観といったものを学べる機会になったと捉えており、大いに啓発につながったと考えている。また繰り返しになるが、急変時対応・看取り支援部会の寸劇は、脳梗塞というテーマで、これがリアルで捉えられた、家族が急変したときの様子の理解が深まった、そのときの関係者の動き方が非常に明確になったという意見を頂いている。その後、カードゲームを使ってテーマごとに参加者の方にそれぞれお話しいただき、話の中でいろいろな気づきがあったというような意見を頂いている。

来年度についても今後内容は検討するが、同時期に開催を考えている。去年の内容も検証の上、医療・介護の各分野に関心を持っていただけるようなイベントを開催したい。

(斎藤委員長)

議題2について意見、質問があればお願いしたい。

参加者は昨年より大分増えているのか。

(事務局)

各講演で大体定員を設けているので、午前中のイベントが若干少なかったように見受けられたが、午後のイベントは大分盛況であった。

(斎藤委員長)

高橋さん、参加されたか。

(高橋委員)

私は寸劇に参加した。かなりイメージできるような寸劇だったようで、こういうときにこういう考え方をするのだなということを知ることができたというお声を頂いた。脳梗塞になって、胃ろうになっていく場面はなかなかイメージができないかと思う。

(斎藤委員長)

来年度は何か方式が変わるのか。

(事務局)

特に大幅な変更は考えていない。

(斎藤委員長)

では、また検討したい。

(3) 令和 8 年度在宅医療介護連携推進事業及び関連する事業について
(事務局)

(資料 3) 令和 8 年度に実施する予定の在宅医療介護連携推進事業に関連するものの一覧である。なお現在は、市の財政当局に予算を要求し、内示を受けている段階であり、この後、市議会定例会に予算を上程し、議決を経て予算化される。あくまでも内示であることを留意、承知いただきたい。

令和 8 年度の新規事業としては、在宅医療推進強化事業がある。令和 7 年度までは小金井市医師会が東京都から直接補助を受けて実施していた事業であるが、令和 8 年度からは市が直接補助を受け、その財源を基に市と医師会で連携し、主に休日・夜間・急変時で主治医が対応できない時間帯で対応できる在宅医療の体制を市内において構築するための体制を整える事業である。実際の運用については医師会と事務局、市の担当と、本会議の皆様にも逐次報告し、意見を頂ければと考えている。

その他の予算については、この会議の運営経費や研修の実施、また在宅医療・介護連携が円滑に進むための連携室の経費等を計上している。在宅医療・介護連携推進事業については、支援室の運営経費などが主な内容となっており、人件費、給与等を含んでいる。在宅療養推進事業に関しては、市の在宅医療・介護連携関係の各研修の開催の経費、多職種連携等を進める上での必要な経費なども含んでいる。

その他認知症施策として、もの忘れ予防検診事業は昨年度から若年性認知症の方にも啓発の意味も含めて対象を拡大しており、今年度も同様に実施していく予定である。また、認知症初期集中支援事業も引き続き実施している。今年度から来年度にかけて実施する認知症のある人の社会参加推進事業は、認知症基本計画を策定する際に地域で認知症の方が安心して生活できるための課題を検討することを目的とし、令和 7 年度は 3 回にわたって商工会などの地域関係者やイトーヨーカドーなどの事業者、シルバー人材センター、介護・看護の関係者の方にお集まりいただきワーキンググループを実施した。その中で、認知症の方がどのような課題が解決の方向に進めば実際に地域で安心して生活できるのかという具体的な内容として、例えば認知症の方が不便なことやこういったことがあれば地域で生活できるという情報を集約したマップや冊子的なものを作成すること、あるいは地域の方が認知症の方の支援に具体的につながりやすいヘルプマークのようなものを作成する、などの意見を頂いた。令和 8 年度はそれらを形にするための検討を行う予定である。

(斎藤委員長)

ただいまの事務局からの報告で意見、質問はあるか。

認知症関連の事業の話があったが、それは認知症施策事業推進委員会がメインになるのか。

(事務局)

2月19日に認知症施策事業推進委員会を開催する予定なので、そちらではもう少し詳細に中身についても報告する予定である。

(斎藤委員長)

在宅医療・介護連携についても認知症は避けて通れないので、両会議体の関係をどうしていくのか、統合した会みたいなものをつくったほうがいいのか、あるいはもう一緒にしてしまうのか、そういうことを検討していければと思う。

特に最後にお話しいただいたワーキンググループは、非常に重要な企画だと思うので、我々としてもこれを少し知りたい。文書でもいいので、この結果を回していただけるとありがたい。

それと、初期集中支援事業は今、どれくらいやられているのか。

(事務局)

本年度は1件という状況である。昨年もそれほど多くない。なかなか事業につながらないのか、あるいは現場で解決されている面もあるのか、その辺は分析が必要だと思う。

(斎藤委員長)

困っている人はもっと多いとは思いますが、なかなか水面下から出てこないということがあるのか。

(高橋委員)

なかなか発見できない場合もあるが、相談を通じて、医療にかかっていない方に関しては、地域の医療機関の方が往診という形で積極的に関わっていただけるので、事業につながらずとも医療につながっていく場面はひがし包括ではあると思う。

(久野委員)

認知症の方はやはり数多くいらっしゃる。ここ何年かで認知症の初期集中支援事業をお願いして、実際先生に来ていただいたこともあるが、そのとき本人にお会いできず、もう御自宅で亡くなられていたケースが1件あった。残念な結果だった。

ほかにもいろいろとケースはあるが、認知症地域支援推進員ができるだけ外来受診につなげて細かい検査ができたほうが、その方にとってよりスピーディーによい結果が出るのではないかとということで、外来にお連れすることのほうが多い。

(斎藤委員長)

承知した。

ほかにも何か意見はあるか。

今の話では、外来受診につなげられる方が多い。つながらない方のための初期集中支援事業なので、ないほうがいいのかといえはいいのかもしれない。

それともの忘れ予防検診はあまり受診する方がいないという印象だが、今年度も少ないのか。

(事務局)

対象年齢の拡大はしたが、実際に受診した方は数人ということで、なかなか受診していただけないという課題を抱えており、来年度については普及啓発等を含めて推進するための方法を考えていかなければならないと考えている。

(斎藤委員長)

他市ではどれくらいの方が受診しているのか、いかにプロモートしているのかということをお勉強していただいて、小金井市にも取り入れていただきたい。やはり早期発見につながらないと意味がない。

(中川委員)

初期集中支援事業に該当する方がいないというよりも、つながらない人が多く、先生をお連れしてもいいようなタイミングを計れるような方がなかなかいない。そこまでの関係性をつくり上げることができると外来受診につなげることもできるので、こういったタイミングで初期集中支援事業を使っているのかが難しいと思っている。

(斎藤委員長)

検診については何か意見はあるか。

(田口委員)

そんなに件数はない状況であるが、実際に検診を受けて、包括に連絡して行こうという方が何名かこちらに来ている。ただ、そういう方は比較的自身で認知症の不安があって、こういうものにつながっている。

(斎藤委員長)

ほかに何かあるか。

次に移りたいと思う。

(4) 小金井市認知症基本計画(仮称)の策定等について

(事務局)

(資料4) 認知症基本計画については、令和8年度から第10期の介護保険計画と一体的に策定することとなっている。本日はスケジュール等についてお示しする。

前回の本会議において認知症施策事業推進委員会で検討に至ったところを報告したが、認知症基本計画については、認知症の方、御家族の方を含めた当事者、要介護者に対しての意見を反映して策定するというところで、介護保険事業計画と一体的なアンケートを昨年秋に行った。

認知症基本計画においては、認知症基本法という国の法律に基づき「新しい認知症観」が打ち出された。「新しい認知症観」については、認知症を抱えていても希望を持って自分らしく暮らし続けることができる社会の構築という概念が示されている。これを受け、積極的に認知症当事者の方の声を聞き、計画や施策に今後反映していくことになってい

る。担当者としても直接認知症の方の声を聞くために、例えば認知症の方のグループホームへ訪問したり、各包括支援センターの圏域で実施されている認知症カフェへの訪問したり、あらゆる機会を捉えて認知症の方本人あるいは家族の方から声を聞く場を積極的に設けていく。

さらに報告で、小金井市に1か所ある認知症疾患医療センターが今まで指定されていた桜町病院から、昨年12月1日付で武蔵野中央病院に変更になっている。認知症疾患医療センターは、認知症の方と家族を支援する体制を構築するために、医療機関同士の連携や医療と介護の連携の推進を担う拠点医療機関として、東京都が指定するものである。市としても認知症疾患医療センターとも積極的に連携を行って、認知症施策をさらに推進していく考えである。先ほど申し上げたように認知症の方の声を聞くという点では認知症疾患医療センターの相談現場にもお邪魔して、認知症の方の声を聞ける機会と捉えられればと考えている。

(斎藤委員長)

ただいまの報告に意見、質問はあるか。

認知症疾患医療センターが替わったということで、先日、私の患者さんを1人武蔵野中央病院にお願いしたが、特に問題なく診断を進めてくださった。皆さんも心配せず紹介していただければと思う。

(5) 令和8年度在宅医療・介護連携推進会議の日程(案)について

(事務局)

来年度、令和8年度の在宅医療・介護連携推進会議の日程についてである。市の会議室が数に限りがあり、確保するのに非常に苦労することから、あらかじめ日程を組ませていただいている。来年度の会議につきましては令和8年7月15日から3回を考えている。今後、委員の皆様の大半の都合が合わないなどの事情が生じた場合は変更も可能である。

(斎藤委員長)

ここは駄目というところがあればお教え願いたい。

では、特に今のところここは駄目という方はいらっしゃらないようなので、また2か月くらい前になったら都合を合わせていきたい。

3 その他

(斎藤委員長)

全体的なことにに関して質問や確認したいことがあればお願いしたい。

4 閉 会

